

大館ふるさと大館へ

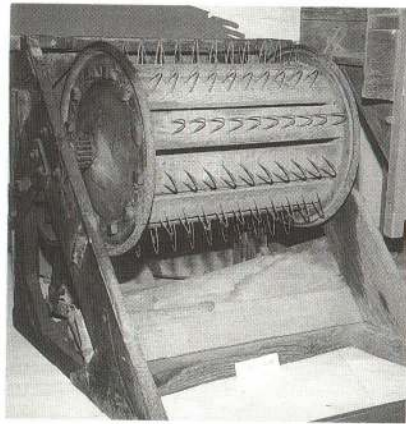
大館ふるさと会からのたより ③②

会員 原 保江さん
(東京都多摩市在住)



ふんわりと想ひ

故郷を離れて早四十年余り。ラジオしかなかった時代に生まれ育った私は、学校から帰ると毎日のように、いつも高いところに置いてあったラジオの前に立って、



足踏み脱穀機

この足踏み脱穀機は昭和30年代ごろまで市内の農家で使用されていました。稲刈りが終わり、乾燥した稲を農家の庭先で足で脱穀したということです。お年寄りのかたは、鼻唄を歌いながら脱穀したものだと思われ出されることでしょうか。この脱穀機を操作するためには、相当なリズム感が必要だったようです。

現在は機械化されていますが、よく見られるコンバインの内部にはこれと同じような円筒形の機械が入っています。

耳をくつつけるようにして聞いていました。誰に遠慮してか、音を小さくして聞いたものです。そういう時代に、西館の谷地中から花輪線扇田駅までの片道一時間と、東大館駅から鳳鳴高校までをてくてく歩いて通ったものです。雪が多かったあのころ、こんなことがありました。いつものとおり扇田駅へ向かって歩いていたら朝のことでした。列車に乗り遅れそうになり、近道をと、駅まで二百メートルくらいある線路上を歩いていたらときに列車が来てしまいました。雪が深く、列車はラッセル車だったため、私の感覚では十分

距離をとったつもりで、線路脇に腰まで雪に埋まり避けていましたが、何と、私の五メートルぐらい手前で列車が止まってしまったのです。国鉄を止めるということは、大変なことだったので。そのときはホームに着いて調書をとられただけで、遅刻することなく登校できました。しかし、この日は列車の運転手のば声と調書のこと気がかり勉強になりませんでした。昼ごろ電話があり、叱られるものと覚悟して取った受話器から「気にしないで一生懸命勉強しなさい」と優しい、温かい言葉に涙が止まりませんでした。忘れられない思い出のヒトコマです。今、また、故郷をテーマに「ハチ公物語」を浪曲にと、同級生からのヒントで取り組んでおります。またお会いできる日を楽しみにしております。

※原さんは現在、浪曲師玉川お福として活躍中です。

仙台発 → 大館着

前略

大館市民になりました ⑦⑨

☆今回は、有浦五丁目にお住まいの柳平保身さんご一家です。

Q. ご家族は何人ですか？

私と妻の睦枝と長女美寿、二女美佳の四人家族です。

Q. どちらからおいでのになりましたか？

四月に仙台市から転勤してきました。仕事の関係でいろいろなところに転動しています。

Q. 大館においてになつてどんなことがありましたか？

仙台にいたころと比較して学校や買物するお店が近くて便利になりました。また、市内にはたくさん温泉があって、子どもたちも温泉好きになってしまいました。そこで暇があればいろいろな温泉に行っています。樹海ドームの誕生祭に長女がカラーガイズで参加させてもらいました。とてもいい記念となったようです。大館は、全体的には人の温か味を感じるとてもよい街ですね。

Q. 食べ物や言葉はいかがですか？

山菜がとてもおいしいですね。特に初めて食べたのですがミズがおいしかったです。料理の仕方がわからなかったのですが、近所のかたから聞いて食べて見ました。そのほかに、水道水がとてもおいしいですね。

言葉については、私が岩手県出身ですからあまり困りませんでした。

Q. 大館に望むことは？

高速道路のインターチェンジが遠いことなど、交通の便がよくありません。来年開港する大館能代空港が完成したら少しはよくなるのではと期待しています。その他、下水道の整備が遅れていますね。また、子どもたちの遊べる広場が少ないように思います。

